# 第4章

# 教育・スポーツ~『たくましさ』をつなぐまちをめざして~

# 第1節 子どもや若者の『たくましさ』をはぐくむ

### 施策の方針

未来の担い手となる子どもたちの「生きる力」を育むため、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む、知徳体のバランスの取れた教育を推進します。

また、学校支援地域本部事業を中核として、学校・家庭・地域の連携・協働を推進 する体制を整え、子どもたちがふるさと柏崎に誇りと愛着を感じ、健やかな成長が図 られるよう取り組みます。

あわせて、安全・安心で快適な学校施設の整備・改修を計画的に進めるとともに、 適正規模の教育環境の整備について検討します。さらに、急速に進展する情報化社 会に児童生徒が適切かつ主体的に対応できるよう、ICT\*環境の整備と充実に取り 組みます。

### 施策の体系

# 第1節 子どもや若者の『たくましさ』をはぐくむ

### 1 知徳体のバランスの取れた教育を進める

- (1)確かな学力をはぐくむ教育の推進 (2)豊かな心をはぐくむ教育の推進
- (3)健やかな体をはぐくむ教育の推進

#### 2 地域ぐるみで子どもや若者を育てる

- (1)地域に誇りと愛着の持てる教育の推進
- (2) 青少年育成活動の推進と家庭教育の支援
- (3)子どもの健全育成支援の推進

#### 3 教育環境を充実させる

(1)良好な教育環境の整備 (2)教育現場の情報化の推進

### 1 知徳体のバランスの取れた教育を進める

#### 現況と課題

本市の児童生徒の学力は、各種学力調査結果によると、基礎的・発展的な内容のいずれもおおむね良好であり、学習への意欲や関心も望ましい傾向にあります。特に、小学生は、学習意欲が高く、家庭学習の時間も増加傾向にあります。一方、中学生は、学力の定着に向けた家庭学習の時間が十分とはいえず、確かな学力の定着及び向上のための教育の推進が必要です。

また、基礎学力の向上につながる読書習慣づくりの支援にも取り組んでいますが、 授業以外で1時間以上読書する児童生徒の割合は、全国平均を下回り、読書に親し む環境づくりが求められています。

大きく変動する現代社会の中で、児童生徒の倫理観や規範意識も変化しつつあります。また、人間関係の希薄化や実体験の不足なども課題として挙げられます。協働により社会を形づくっていく上で求められるルールやマナーを学ぶこと、思いやりの心や社会性の育成など、学校教育活動全体を通して豊かな心を育む必要性が高まっています。

小・中学校で実施されている体力テストの結果は、多くの種目で全国平均を上回り、 体力向上への取組に一定の成果が見られます。一方で、栄養の偏りや朝食の欠食、 肥満傾向などの課題もあります。このため、学校での体育や運動部活動、食育などを 通じて児童生徒の健康でたくましい心身の発達に向けた取組が求められています。

#### 児童生徒の学習に対する関心・意欲

(単位:%)

区分	平成 22 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
小学校 6 年生	51.0	69.8	62.1	63.0	65.4
中学校 3 年生	50.2	56.5	54.6	54.9	55.3

【資料:学校教育課】

<sup>※「</sup>全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙調査における国語及び算数・数学の関心・意欲等に関する質問(「国語、算数・数学の勉強は好きですか」)に対して、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と肯定的な回答をした児童生徒の割合(数値は、国語と算数・数学の平均)

<sup>※</sup>平成 23 年度は、東日本大震災のため未実施。平成 22 年度、平成 24 年度は抽出調査であり、一部の児童生 徒のみ実施

#### (1)確かな学力をはぐくむ教育の推進

児童生徒が意欲を持って主体的に学ぶことができるよう、小・中学校や家庭と連携 した取組を進めるとともに、児童生徒の学習習慣を確立させ、学ぶ意欲と学力の向上 に努めます。

また、児童生徒の読書に親しむ環境の整備を通じて主体的で意欲的な読書活動を推進し、読書習慣を形成します。

#### (2) 豊かな心をはぐくむ教育の推進

日々の教育活動の中で道徳教育を充実するとともに、一人ひとりの児童生徒が活躍できる場を大切にし、倫理観や自己有用感を育みます。また、学校間や家庭・地域との円滑な連携を進めながら、多様な交流の場や体験活動、優れた芸術文化に触れる機会を設けるなど、豊かな人間性を育む教育活動を推進します。

#### (3) 健やかな体をはぐくむ教育の推進《健康・元気・いきいき戦略》

運動の楽しさや喜びを味わいながら、主体的・協働的に課題を解決する力を育むとともに、児童生徒が自らの体力向上を実感できる「1学校1取組」運動を計画的に進めます。

望ましい生活習慣の確立に向け、栄養教諭等の専門性をいかした授業、地場産食材を活用した学校給食の推進など、食育に関する指導を充実するとともに、家庭への情報提供により、食育に対する理解を深めます。



学校で作成した学習や生活の手引き

# 施策の目標指標

目標指標	現在値(平成 27 年度)	目標値(平成 33 年度)	
「国語及び算数・数学の勉強は好き」と回答する	小学校6年生 65.4%	小学校6年生 68.0%	
児童生徒の割合	中学校3年生 55.3%	中学校3年生 58.0%	
「学校に行くのは楽しい」と感じている児童生徒	小学校6年生 90.1%	小学校6年生 95.0%	
の割合	中学校3年生 83.5%	中学校3年生 90.0%	
児童生徒の体力が全国平均を上回っている体力 テストの種目の割合	78.0% (平成 26 年度)	80.0%	

<sup>※「</sup>国語及び算数・数学の勉強は好き」と回答する児童生徒の割合及び「学校に行くのは楽しい」と感じている児童生徒の割合は、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査結果による。

事業	事業概要等	事業主体
指導補助事業	通常学級や特別支援学級*への指導補助員の配置による学習指導や生徒指導の補助・支援等の実施	市
図書館サービス事業	図書館への学校読書支援員の配置 学校と図書館等の連携による学校以外での家庭 読書・家族読書「家読(うちどく)」の推進	市
英語教育推進事業	外国人指導助手を活用した小・中学校における 英語教育と国際教育の充実	市
「子ども夢・感動・絆プロ ジェクト」推進事業	各学校において、次代を担う子どもたちに夢と 感動を与え、絆を育む特色ある活動の実施	市・小・中学校
子ども向け講座運営事業	ものづくりの楽しさや大切さの体験 親子や友達同士のコミュニケーションを図る講 座の実施	市
体力向上「1学校1取組」 運動事業	各学校における児童生徒の体力面での実態・課 題に即した活動の推進	県・市
食育推進活動事業	体験活動を通じた学童期における食育の推進	市



移動図書館(枇杷島小学校)

### 2 地域ぐるみで子どもや若者を育てる

#### 現況と課題

本市は、目指す子ども像として、「柏崎に愛着を深め、誇りを持つ子ども」を掲げ、学校・地域・関係機関の連携により、柏崎のひと・もの・ことをいかし、そこから学ぶ学習を進めています。 引き続き、柏崎のあらゆることについてその魅力を知り、更に良さを感じ、その上で未来を見通して自分自身が柏崎とどのように関わっていくかを考える学習に取り組み、地域に誇りと愛着を持つ子どもたちを育てることが必要です。

また、子どもたちを取り巻く様々な課題に対応するためには、学校・家庭・地域が連携を図り、地域ぐるみで子どもを育てることが重要であり、様々な形で地域が学校を支援することが大切です。

経済的な理由で就学困難な児童生徒、特別支援学級\*在籍児童生徒の保護者に対しては、就学援助費や特別支援教育就学奨励費の補助を行っていますが、申請していないケースもあり、きめ細かな支援が求められています。また、コミュニケーションツール\*の多様化から、情報モラル教育の充実を図ることが必要です。

特別な教育的ニーズのある児童生徒が増加し、相談内容も複雑化するなど、就学時や義務教育終了後の相談・支援の必要性が高まっています。不登校児童生徒は減少傾向にあるものの、中退や卒業に伴い学校の支援が無くなることは、ニートやひきこもりなどの要因にもなり得ることから、切れ目のない相談支援体制の強化が望まれます。

子どもたちが夢を持ち、将来の展望を切りひらいていけるよう、働くことの大切さを 学ぶことが重要です。中学生を対象にキャリア教育\*を導入していますが、引き続き 企業・地域・行政が連携して取り組むことが必要です。

#### 特別支援学級及び通級指導教室\*

(単位:人)

区分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
特別支援学級在籍児童生徒数	204	224	239	260	256
通級指導教室通級児童生徒数	152	159	187	191	186

【資料:学校教育課】

#### (1) 地域に誇りと愛着の持てる教育の推進《地域の宝・育成戦略》

子どもたちの地域に対する誇りと愛着を育む学習環境の整備に向け、教育機関や 社会教育施設と学校が連携を図りながら、キャリア教育\*や「柏崎学\*」を推進し、ふる さと柏崎の魅力を学びながら、将来を担う人材を育成します。

また、地域について学んだことをいかし、柏崎の活性化に向けたアイデアや自分たちが住む地域への提言などを加え、その成果を発信する学習を展開します。

地域コーディネーター\*や地域ボランティアの確保と育成により、学校と地域の連携の強化を図り、「ともに歩む地域の学校」を目指した取組を進めます。

#### (2) 青少年育成活動の推進と家庭教育の支援

教育大綱に掲げる「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の推進に向け、学校・家庭・地域が連携を深めながら、親子で取り組む「良い習慣づくり」に取り組みます。

また、子どもが生まれ育った環境に関係なく健やかに成長できるよう、経済的な理由で就学困難な児童生徒の保護者などに対し、就学に係る経済的負担の軽減に努めます。

さらに、子どもの発達段階に応じ、コミュニケーションツール\*の望ましい利用や危険性について学ぶ情報モラル教育の推進に努めます。

#### (3) 子どもの健全育成支援の推進

特別な教育的ニーズのある児童生徒を支援するため、指導補助員や介助員を配置するとともに、特別支援学級\*や通級指導教室\*の整備を進めます。また、幼稚園・保育園や学校・家庭・地域との連携を深め、成長段階に応じた切れ目のない支援の充実に努めます。

不登校などの困難を抱える子どもや若者の育成支援体制の強化、相談機関相互の連携を図るとともに、若者の自立を促すため、長岡地域若者サポートステーション\*を活用します。

あわせて、子どもたちの生きる力を育むため、多様な学習機会を提供します。



「中学生お仕事創生塾」自律走行ロボットを作ろう!

### 施策の目標指標

目標指標	現在値(平成 27 年度)	目標値(平成 33 年度)	
「地域行事への参加」、「地域・社会に関する関心」、「地域・社会への参画意識」の3項目の質問に対する望ましい回答の割合(県との比較)	小学校 +2.3% 中学校 +2.0%	小学校+2.8% 中学校+2.5%	
「学校の教育活動及び家庭との連携による児童生徒の 望ましい生活習慣の定着」に関する学校の自己評価結果	指標値 81	指標値 83	
「保幼小中の連携による児童生徒の円滑な就学や途切れない指導・支援が推進できた」とする学校の自己評価 結果	指標値 81	指標値 83	

- ※「地域行事への参加」、「地域・社会に関する関心」、「地域・社会への参画意識」の3項目の質問に対する望ましい回答の割合は、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査結果による。
- ※「学校の教育活動及び家庭との連携による児童生徒の望ましい生活習慣の定着」に関する学校の自己評価結果及び「保幼小中の連携による児童生徒の円滑な就学や途切れない指導・支援が推進できた」とする学校の自己評価結果は、学校教育実践上の努力点実践状況調査結果による。

事業	事業概要等	事業主体
学校支援地域本部事業	全中学校区における地域住民等の参画による学 校支援活動の実施	市・小・中学校・家庭・ 地域
子どもの未来を拓く「柏崎学*」 等推進事業	子どもや教職員を対象とした講座の実施 各学校の職場体験学習などへの支援 ふるさと柏崎を学ぶ副読本や指導資料の作成	市
幼保小連携・小中一貫教育*推 進事業	保護者を対象にした子育て講座の実施 小・中9年間を見通し、各中学校区の課題解決に 向けた一貫性ある指導の実施	市
放課後子ども教室推進事業	地域住民の参画を得ながら、子どもたちが地域社 会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくり	市・地域コミュニティ
子どもの生活習慣啓発事業	学校・家庭・地域が協働した子どもの健全育成に 向けた取組の実施	市・小・中学校・家庭・ 地域
就学援助事業	経済的理由で就学が困難な児童生徒に対する就 学支援	市
就学奨励事業	特別支援学級*等に在籍する児童生徒に対する就 学支援	市
特別支援学級介助事業	特別支援学級を設置する小・中学校への介助員の 配置による身辺介助、学習支援、機能訓練の補助 等の実施	市
通級指導教室*事業	言語障がい、難聴、発達障がいの各通級指導教室 の設置による特別な教育的支援が必要な児童生 徒に対する就学環境の整備	市
心の教室相談員事業	中学校への心の教室相談員の配置による不登校 や問題行動等の予防	市



教職員を対象とした「柏崎学~綾子舞~」研修講座

### 3 教育環境を充実させる

#### 現況と課題

学校施設は、教育施設としての役割のほか、コミュニティや防災拠点としての役割も担っています。このため、施設の改修に当たっては、建物本体の老朽化のほか、環境性能、バリアフリー\*化、防災機能への対応が必要です。

あわせて、児童生徒数が減少している中、施設の規模や地域の動向などを見極めつつ、教育に適した配置と計画的な施設環境の維持が重要です。

情報化社会の進展により、児童生徒の情報活用能力の育成と情報モラル教育の 推進などが不可欠であることから、情報教育に対する教員の指導力の向上が求められています。

本市の小・中学校では、校務PCや教育情報支援システム\*の導入などにより、グループウェア\*を活用した事務処理の効率化が図られました。デジタル教科書\*やWEBミュージアム\*などのソフトを日常の授業でいかしていくため、ICT\*機器の整備促進や活用環境の充実を図ることが必要です。

また、国の施策や動向に速やかに対応できるよう、学校のICT環境の定期的な更新やメンテナンス、教職員研修やサポート体制の充実が求められています。

#### 小・中学校の未改修面積

(単位:%)

区分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
25 年以上経過した市内小・中 学校の未改修面積割合	48.9	46.9	42.5	40.2	39.5

【資料:教育総務課】

※部分改修のみの建物は、未改修に含む。



改築時期を迎えている東中学校

#### (1)良好な教育環境の整備

児童生徒の安全・安心、また、災害時の地域住民の避難所・避難場所としての機能を果たす学校施設とするため、「学校施設の長寿命化計画」に基づいた計画的な改築・改修を行います。また、児童生徒の減少数に応じた教育環境の整備について検討します。

#### (2) 教育現場の情報化の推進

児童生徒の情報活用能力の育成と情報モラル教育を推進するため、教職員に対するICT\*活用研修やサポート体制を充実し、指導力を高めます。

また、デジタル教科書\*やWEBミュージアム\*などのデジタル教材の効果的な活用に向け、教職員研修の充実とICT関連機器の整備を検討します。

#### 施策の目標指標

目標指標	現在値(平成 27 年度)	目標値(平成 33 年度)
25 年以上経過した市内小・中学校の未改修面積割合	39.5%	26.1%
教職員の ICT 活用研修の受講者数	351 人	450 人

事業	事業概要等	事業主体
学校施設整備事業	老朽化した学校施設の改築及び改修 避難所機能を果たす改修	市
学校施設長寿命化事業	施設の長寿命化に向けた改修	市
情報機器管理事業	児童生徒・教職員の情報教育や環境の充実	市
教育情報支援事業	教職員への情報機器に関する指導や支援 ICT 活用研修の実施	市



むかしのくらしと道具展(博物館)

# 第2節 学びを通じて地域の『たくましさ』をはぐくむ

### 施策の方針

誰もが生涯にわたり、生きがいを持ちながら主体的に学び続けられる環境をつくるため、いつでも、どこでも学べる機会を創出するとともに、様々な機関・施設・団体と連携しながら、多様な生涯学習ニーズに対応する学習内容を提供します。

また、図書館、博物館など、生涯学習に活用される社会教育環境の充実に取り組みます。

さらに、学びの成果を地域社会における様々な地域活動、教育活動にいかせるよう、多様な主体と連携した生涯学習を推進します。

### 施策の体系

### 第2節 学びを通じて地域の『たくましさ』をはぐくむ

#### 1 学びの機会を充実させる

(1) 多様な学習・交流機会の提供 (2) 社会教育環境の充実

#### 2 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する

- (1) 地域づくりへの学習成果の活用
- (2) 様々な主体との連携による生涯学習の充実

### 1 学びの機会を充実させる

### 現況と課題

市民一人ひとりが生涯にわたり、主体的に学習活動に取り組めるよう、年代やジャンル別など、市民の生涯学習ニーズに合った学習機会が得られる環境づくりが求められています。

教育を中心とした関連分野と連携した取組を進めていますが、多様化する学習ニーズに応じた講座内容の見直しやインターネットの活用、専門性のある内容の学習機会の提供が重要です。

また、市民がいつでも、どこでも自己実現による生きがいづくりが進められるよう、 生涯学習に関する情報を広く発信し、関係機関と連携しながら幅広い生涯学習ニーズに的確に応えていくことが必要です。

図書館や博物館は、読書活動や資料収集などを通じて市民が郷土の歴史・文化を身近に学習することのできる施設として利用されています。しかしながら、情報デジタル技術が進歩している中、施設や設備は老朽化が進んでいることから、改修やリニューアルなど、時代の変化に適応した整備が求められています。

#### 生涯学習の状況

(単位:回・人・冊)

区	分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
学習講座等	実 施 数	265	259	260	503	424
子白碑座守	受講者数	19,436	19,583	20,440	28,872	21,661
	入館者数	460,244	458,950	445,642	432,544	404,098
図書館	貸出者数	102,907	107,199	120,134	109,332	106,587
	貸出点数	402,515	389,294	353,700	364,385	374,558
博物館	入館者数	46,012	46,456	41,464	44,353	47,985

【学習講座等資料:生涯学習・社会教育の現状(新潟県教育委員会)】

【図書館資料:図書館】 【博物館資料:博物館報】

#### (1) 多様な学習・交流機会の提供《健康・元気・いきいき戦略》

市民の生涯学習ニーズに応えるため、関係機関や各種団体と連携・協力し、学習講座受講者の意見を取り入れながら、多様な学習ニーズに応じた講座メニューを充実します。

また、高齢者や障がい者も気軽に受講できる学習環境の整備に努めます。さらに、 専門性の高い課題対応型プログラムを導入し、目的を明確にした学習機会を提供し ます。

各生涯学習団体の学習意欲を高めるため、学習の場の創出や活動の支援に取り 組み、各団体との交流機会を充実します。

#### (2) 社会教育環境の充実

生涯学習関連施設との連携を図りながら、学習機会の創出や学習資源の共有化を図り、社会教育環境の体系的で戦略的な体制をつくります。また、WEBミュージアム\*の活用により、多くの市民が地域の自然・歴史・文化に触れ、発見する学習機会を充実し、市民の郷土愛の醸成に努めます。

図書館や博物館は、読書活動の支援や企画展示の開催などにより、生涯学習に触れる機会を提供します。また、情報化の進展に対応したデジタル資料の整備や保存を図りながら、施設の充実に努めるほか、市民ニーズに対応した施設・設備の補修や更新を進めます。

特に、博物館については、人文系展示コーナーのリニューアルを行うとともに、ふる さと人物館の機能を統合し、「柏崎学\*」を推進する拠点の一つとなるよう充実します。

### 施策の目標指標

目標指標	現在値(平成 27 年度)	目標値(平成 33 年度)
参加者が募集定員の 50%を超える学習講座の割合	87.5%	100.0%
図書館貸出利用登録者数の人口割合	45.6%	50.0%

事業	事業概要等	事業主体
柏崎公民館運営事業	各種生涯学習活動の実施	市
シニアカレッジ講座運営事業	高齢者向け生涯学習講座の実施	市
マナビィステージ運営事業	日頃の活動成果を発表する市民芸能発表会の 開催	市・実行委員会
博物館施設整備事業	人文系展示コーナーのリニューアル プラネタリウム機器の更新	市

### 2 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する

### 現況と課題

生涯学習の成果を地域づくりにいかしていくため、専門的な知識や技術を持った人材の確保や育成が重要です。本市では、生涯学習の成果の活用を目的とした生涯学習地域人材バンク\*を進めていますが、学習の成果を提供する側とされる側をいかに結び付けていくかが課題です。

市内2大学との連携による市民大学や職員が行政の取組、事業等について解説する出前形式の講座など、市民の学習機会を提供しています。引き続き、特色ある生涯学習講座を提供できるよう、市民の学習ニーズの把握に努めるとともに、市内2大学やコミュニティセンター、図書館、博物館等との連携を強化していくことが必要です。

また、学校の教育活動を支援する地域コーディネーター\*の確保と育成が必要です。

#### 地域コーディネーター

(単位:人)

区分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
地域コーディネーターの人数	3	3	3	32	40

【資料:生涯学習課】



昔話語り部教室(鯨波小学校)

#### (1) 地域づくりへの学習成果の活用

地域の中から生涯学習の指導者となる人材を発掘するとともに、講師などの人材 情報の集約と整理を行い、相互に活用できる生涯学習地域人材バンク\*への登録を 進めます。

また、こうした人材情報を市民が企画する講座・教室において共有することにより、 地域での学習活動の活性化を図ります。 さらに、学んだことを地域づくりにいかせる よう、学習成果の活用を支援します。

#### (2)様々な主体との連携による生涯学習の充実

市民の多様な学習ニーズに対応するため、市内2大学やコミュニティセンター、図書館、博物館との連携を強化するとともに、様々な機関や組織とのネットワークを構築し、市民の多様な学習ニーズに応じた講座等を企画します。

また、地域コーディネーター\*の確保と育成により、学校・家庭・地域の連携支援体制を強化し、学校支援活動を通じて地域の教育力を高めます。

### 施策の目標指標

目標指標	現在値(平成 27 年度)	目標値(平成 33 年度)
社会教育関係団体数	688 団体	723 団体
連携による講座実施数	9 🛭	12 🛽

事業	事業概要等	事業主体
市民大学運営事業	学ぶ喜び・楽しみ・生きがいを発見する各種 講座の実施	市
エイジレス講座運営事業	年齢を問わない学習機会の提供	市



柏崎マラソン

# 第3節 スポーツを通じた『たくましさ』をはぐくむ

### 施策の方針

市民がそれぞれのライフステージに応じてスポーツに接し、楽しみ、継続することのできる環境づくりに努めるとともに、自らスポーツを「する」だけでなく、「観る」、「支える」、「育てる」ことにも着目し、スポーツによる地域づくり、健康づくり、生きがいづくりを目指します。

各種スポーツコンベンション\*、スポーツ合宿誘致及びホストタウン\*事業の実施により、交流人口を拡大し、地域の活性化とシティセールスの推進につなげます。

本市のスポーツ競技力を総合的に高めるため、これまで以上に各種競技団体との相互連携を図るとともに、優れた指導者の養成と確保により、国内や世界で通用する競技者の育成と強化に努めます。

また、「水球のまち柏崎」として、東京オリンピック・パラリンピックの開催を視野に入れた取組を推進します。

さらに、体育施設利用者の安全・安心を確保するとともに、多様化するニーズに応じたスポーツ環境の整備に取り組みます。

### 施策の体系

### 第3節 スポーツを通じた『たくましさ』をはぐくむ

- 1 スポーツによる地域づくりや生きがいづくりを進める
  - (1)ライフステージに応じたスポーツの推進
  - (2)スポーツによる交流人口の拡大
- 2 全国や世界に通用する競技者を育てる
  - (1)競技団体との連携の強化と指導者の養成
  - (2)競技力の向上に向けた取組の推進 (3)施設の整備と改修

### 1 スポーツによる地域づくりや生きがいづくりを進める

#### 現況と課題

高齢化やライフスタイルの多様化が進行する中、健康の維持や生きがいづくりの 観点から、より多くの市民がスポーツや運動に取り組む機会を持つことが重要です。 このため、誰もが気軽にスポーツや運動に楽しく接することができるよう、きっかけづく りを行うとともに、継続してスポーツ活動を行うことができる環境の整備が必要です。

また、まち全体でスポーツによる地域づくりを推進していくためには、「する」、「観る」スポーツに加えて、「支える」、「育てる」スポーツへの取組が大切です。

本市ではこれまで、市民大運動会を始めとする市民スポーツ大会や地域スポーツ 活動などによる市民間の交流、スポーツ合宿誘致活動などによる地域間の交流を進めてきました。

今後は、スポーツコンベンション\*や水球競技を通じたホストタウン\*事業をシティセールスに結び付け、本市を全国や世界に向けてPRしていくことが重要です。

#### 体育施設の利用とスポーツ合宿

(単位:人・団体)

	区分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
市内体育施設利用者数		826,412	849,426	842,524	833,951	846,941
	総合体育館(トレーニング室 を除く。)	151,712	158,944	162,184	166,599	141,203
	総合体育館トレーニング室	51,478	55,034	60,656	62,449	67,251
	アクアパーク(50m)	29,775	34,822	38,187	40,389	45,231
	アクアパーク(アイスリンク)	23,234	27,073	26,762	20,824	19,292
	アクアパーク(レジャープー ル)	58,354	61,937	61,195	63,586	66,724
7	スポーツ合宿の受入団体数	33	26	45	36	40

【資料:スポーツ振興課】

※市内体育施設利用者数は、体育施設利用者数と学校開放体育施設利用者数の合計



市民卓球大会

#### (1) ライフステージに応じたスポーツの推進《健康・元気・いきいき戦略》

総合型地域スポーツクラブ\*、地区体育協会、スポーツ推進委員などが地域のスポーツ活動に対して活発に取り組めるよう、協力・支援体制を強化します。

また、スポーツの分野にとどまらず、他分野の関連する機関等とのパートナーシップを築き、誰でも楽しく気軽にライフステージに合ったスポーツ活動ができる場と機会を提供することにより、スポーツによる地域づくり、健康づくり、生きがいづくりに取り組みます。

#### (2) スポーツによる交流人口の拡大《魅力あるまち形成戦略》

各競技団体や柏崎市スポーツ合宿誘致推進連絡協議会などの関係団体との連携を図り、海を始めとする柏崎特有の観光資源を活用したスポーツコンベンション\*等により交流人口を拡大し、地域の活性化とシティセールスの推進につなげます。

「水球のまち柏崎」として、東京オリンピック・パラリンピックの開催を視野に入れながら、ホストタウン\*として水球競技を通じたセルビア共和国、モンテネグロ両国との国際スポーツ・文化交流の実現に向けた取組を進めます。

#### 施策の目標指標

目標指標	現在値(平成 27 年度)	目標値(平成 33 年度)
市内体育施設利用者数	846,941 人	900,000 人
市主催スポーツイベント参加者数 (市民大運動会を 除く。)	1,795人	2,500 人

事業	事業概要等	事業主体
市町村生涯スポーツ振興事業	中学校の運動部活動外部指導者に対する支援 小中体育連盟が主催する大会出場に対する支援	市・小中体育連盟
市民スポーツ大会事業	市民スポーツ大会の開催	市・スポーツ推進委員協 議会・市体育協会
スポーツ健康づくり事業	既存事業間の連携やスポーツ施設の活用による取 組の充実 住民参加型のスポーツによる健康づくりの調査、	市
	研究	
水球のまち柏崎推進事業	水球競技の聖地化に向けたホストタウン事業等の 推進	市・実行委員会

### 2 全国や世界に通用する競技者を育てる

#### 現況と課題

本市ではこれまで、柏崎市体育協会や各競技団体と連携しながら選手や団体の育成を強化し、その結果、全国大会への出場など、一定の成果が見られています。

加えて、2016年リオデジャネイロオリンピックには、本市にゆかりのある5人の選手が出場したことにより、市民のスポーツに対する関心が高まっています。この機運を東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて更に高め、まち全体で競技スポーツを支援することが大切です。

一方で、優秀な指導者の養成・確保や若年世代の優秀競技者の市外への流出が 課題となっています。このため、柏崎市体育協会を始めとする関係団体等に対する 継続した支援と連携の強化により、計画的な指導者の養成と選手の強化に取り組 むことが必要です。

また、多様化するスポーツへの要望に対応して、スポーツ施設の利活用の検討を 行うとともに、適正な維持管理と計画的な施設改修を行うことが必要です。

#### 全国大会以上の出場者・入賞者

(単位:人・団体)

	区分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
出	場数(個人)	55	64	48	71	54
	国際大会出場数	11	4	2	9	9
出	場数(団体)	20	20	14	13	20
入	賞数(個人)	21	20	9	16	21
入	.賞数(団体)	8	9	6	1	8

【資料:スポーツ振興課】

※入賞は8位まで



第2回全日本ジュニア(U17)水球競技選手権大会 -かしわざき潮風カップ2016-

#### (1)競技団体との連携の強化と指導者の養成

柏崎市体育協会、小・中学校体育連盟、各競技団体との連携を強化し、優秀な競技者及び指導者の養成や確保に取り組みます。

#### (2) 競技力の向上に向けた取組の推進《魅力あるまち形成戦略》

柏崎市体育協会を始めとする各競技団体と連携するとともに、学校部活動への支援を強化し、全国や世界で通用するトップアスリートの育成や競技力の向上を目指します。

また、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、社会人水球チームへの強化支援を継続するとともに、「水球のまち柏崎」にふさわしい練習環境の整備について検討を行います。

#### (3)施設の整備と改修

各スポーツ施設は、指定管理者\*と連携を強化し、利用者の安全の確保と利便性の向上、競技力の向上を十分考慮した整備・改修を計画的に進めます。また、施設稼働率の向上や多様化する利用者ニーズへの対応に取り組みます。

### 施策の目標指標

目標指標	現在値(平成 27 年度)	目標値(平成 33 年度)	
全国大会以上の入賞数	個人 21 人 団体 8団体	個人 25 人 団体 10 団体	
全国大会以上の出場数	個人 54 人 団体 20 団体	個人 65 人 団体 25 団体	

事業	事業概要等	事業主体
指導者養成・団体育成事業	柏崎市体育協会の活動に対する支援 総合型地域スポーツクラブ*及び地区体育協 会の活動に対する支援	市
選手強化事業	柏崎水泳連盟、柏崎ハンドボール協会、柏崎 市陸上競技協会、社会人水球チームの各活動 に対する支援	市・市体育協会・競技団体
国際大会等出場奨励事業	国際大会以上の出場者に対する支援	市
————————————————————— 体育施設整備事業	市内スポーツ施設の整備・改修	市・指定管理者



柏崎のシティセールスシンボルマーク